

「多様性爆発の世紀に生きる」

初めに

本日、大阪大学から新たな一步を踏み出さんとされている学部卒業生の皆さん、大学院修士・博士課程修了生の皆さん、そして専門職博士課程修了生の皆さん、ご卒業、修了おめでとうございます。卒業式・学位記授与式にあたり、これまで大阪大学で学び、努力と研鑽を積み重ねられた皆さんに対して、大阪大学総長として心からお祝いし、讃えたいと思います。

また、この日まで長きにわたって皆さんを支えてこられましたご両親、ご家族の方々に對しまして心よりお喜び申し上げますとともに、深く敬意を表したく存じます。

皆さんは本日晴れて学士や修士そして博士の学位を取得され、一人一人が、これから進むべき道に夢と希望を膨らませておられることと思います。皆さんは大阪大学で授業や研究、あるいはクラブ活動や社会活動などを通じ様々な経験を積まれました。いずれの分野に進もうとも世界中の国・地域で、大阪大学で養われた知識と能力を生かし、その分野のリーダーになって我が国の将来は勿論のこと、人類社会の発展と福祉の向上に貢献してほしいと思います。大阪大学で学ばれた皆さんには、21世紀のグローバル社会で活躍出来るリーダーとしての資質と能力が備わっていることを誇りに思い、品格と責任を持って社会に進んでいただきたいと思います。

多様性による発展と対立の歴史

まず最初に、皆さんがこれから活躍する社会はどのような状況にあるのかに関して話をしたいと思います。今、私たちは「多様性の爆発の世紀」にいるのではないかと思います。

20万年位前にアフリカを起源としてホモ・サピエンスが誕生して以来、人類は数万年の歳月をかけてユーラシア（アジア、ヨーロッパ）、オーストラリア、アメリカ大陸へと移動、拡散して行き、この間にコイサン、コーカサイド、モンゴロイド、アボリジニの4つの人種が生まれて今日に至っています。そして、1万年から数千年前にメソポタミア文明、エジプト文明、インダス文明、中国文明、マヤ文明等の様々な文明が各地に開花しました。これらの文明は地理的な関係に依存して緩やかな関係を保つ事もありましたが、それぞれが独自に生まれ、周辺地域を巻き込みながらお互いが影響し合い変貌をとげていきました。その過程でユダヤ教、キリスト教、イスラム教、仏教やヒンズー教など様々な宗教が生まれるとともに、言語や文化などの多様性が生まれて来ました。4つの人種はさらに細分化され様々な諸民族が今地球上には暮らしています。これらの様々な多様性を有する人類は長い歴史のなかでお互いが影響し合い、かつ対立を引き起こし、時には戦争すら引き起こして来ました。このような多様性の対立は単に従属や支配関係のみに終わる事なく、時として火薬のような武器等の科学技術の発展も誘導して来ました。また多様性が交わる事で人類社会に様々な革新的な変革がもたらされました。さらに多様性は人類社会に心の豊かさをもたらしました。このように人類の長い歴史は多様性がもたらす発展と多様性ゆえに

生じる対立や戦争の歴史であったと言う事ができると思います。

人類の歴史におけるグローバル化の波

20万年から数万年前の間に生じたホモ・サピエンスの緩やかな大陸間移動と5大陸への拡散を、グローバル化の第1の波とすると、第2の波は、紀元前1万年から西暦12世紀ごろまでの1万年余りの間に生じた各地域での農耕文明の開花とその周辺への拡大です。この間に、言語、人、習慣、文明や宗教など今日の人類社会に存在するあらゆる多様性の基本が生まれました。そして第3のグローバル化の波は13世紀から17世紀の400年間に起こりました。中央アジアそして一部ヨーロッパを含むユーラシア大陸に及ぶ世界帝国を築いた広大なモンゴル帝国の出現により広域圏での陸上交通のみならず、アジアからアフリカ東海岸に至る大航海時代の幕が開きました。そして16世紀にはポルトガルやスペインなどによりユーラシア（アジア、ヨーロッパ）、アフリカ、オーストラリア、アメリカ大陸が7つの海洋で結ばれました。第4の波は、18世紀末から始まった産業革命に端を発するイギリスを中心とする植民地主義、その後のヨーロッパ諸国の帝国主義やアメリカの台頭、その結果としての2度の世界大戦と共産主義の出現や大戦後の東西冷戦構造への道筋です。この間、主役はイギリスからソ連やアメリカと変遷こそすれ、20世紀末のソ連やベルリンの壁崩壊に象徴される冷戦の終結で決着をみました。そして現代、20世紀末から始まった第5波のグローバル化、それは20世紀に花開いた相対性理論や量子力学に基づいた科学・技術の急激な発展により人類が経験したことのない地球の極端なまでの狭小化を引き起こす波です。

グローバル化の第5波

交通手段は人類の歴史のなかで、産業革命までは穏やかに発展を遂げて来ました。20万年前はアフリカから北アメリカに人類が移動するのに何万年という時間がかかりました。その後人類は数千年前に馬などの動物による移動手段を獲得しました。そして船という海上移動手段を手に入れただけではなく、1世紀には中国で羅針盤が発明され海を迷う事なく航海する手段を手に入れました。また人力や動物の力から風力や水力等の自然エネルギーを使用する手段を開発して来ました。18世紀から19世紀にかけての蒸気機関、内燃機関、発動機や発電機の発明により、人類は自然に依存しないエネルギーを効率的に生み出す事に成功しました。それによって、現在我々が移動手段として利用している自動車、鉄道、飛行機が開発され、素早く自由に移動する事が可能になりました。例えば飛行機の普及によって、徒歩で長い時間をかけて大陸を横断していた我々人類は、今やわずか半日で大陸を横断する事ができます。更に開発中の超音速旅客機が実現すれば東京とニューヨーク間は3時間の距離に縮まります。人工衛星ではわずか1時間ほどで地球を1周する事ができます。

一方、のろしや伝書鳩などに頼っていた情報伝達も電信や無線の発明を経て、今ではインターネットにより瞬時に情報が世界中に伝わるようになりました。さらに、「モノのインターネット (Internet of Things, IoT)」の時代が始まりつつあります。世界がインターネットにより1つになろうとしています。

移動手段や情報伝達手段の発達により緩やかではあれ、確実に狭くなってきた地球は、この100年の間に過去の20万年間に生じた変化に比べて、遙か次元を超えて狭くなりつつ

あります。人類はその歴史のなかで幾度となく大きなグローバル化の波に襲われてきましたが、今人類が直面しているグローバル化の波は過去のそれとは全く中身が違うものです。すなわち人類の生活の基盤としている地球そのものが劇的に狭くなることを伴うものです。その意味で、人類は今まで経験した事がない性格のグローバル化の波の中に巻き込まれていると考える事が出来ます。すなわち新人類が20万年前に誕生して以来最大の大変革期の真っ只中に私たちは生きているのです。

21世紀は多様性爆発の世紀

では21世紀のグローバル社会においてはなにが起こるのか、この点をよくよく考える必要があります。移動手段や情報伝達手段の発展に加えて、急激に進む人口の増加があります。永らく数億人であった世界の人口が、19世紀に10億人を突破し、その後急激に増加し、現在70億人、そして2050年には90億人を超えると推定されています。このように、移動手段や情報伝達手段のみならず、人口増加の観点からも地球は飛躍的に狭くなりつつあります。長らく比較的広大な地球に存在していた多様性は今第5のグローバル化の波のなかで、人口増加も加わり狭い時間空間に凝縮されようとしています。多様性の凝縮の問題に加えて、急激な人口の増加や技術革新は食料問題、エネルギーや環境問題、さらには感染症問題や生物多様性の危機など、様々な要因が複雑に絡んだ地球規模の深刻な問題を投げかけています。

言語、人、習慣、文化、宗教や政治形態などの多様性は革新的なイノベーションの創出や心豊かな人類社会の営みにとって不可欠です。一方多様性は負の側面として様々な障壁や紛争をもたらしてきました。まさに人類の歴史は多様性による発展と対立の歴史であると言われる所以です。人類歴史の中で過去に例をみない次元でグローバル化が進む現在の国際社会では、狭い時間空間に凝縮された多様性がもたらす負の側面が飛躍的に強くなり、様々な対立や紛争が世界に蔓延しつつあると思います。21世紀は「多様性の爆発の世紀」になる可能性すらあります。温度が連続的に変化し、ある時点で個体から液体へ、さらに気体へと全く異なる次元へと非連続的に物質が変化する、そのような大きな変革期を人類は迎えているのではないかと思います。21世紀のグローバル化社会においては多様性を維持しながら、多様性が生み出す障壁を乗り越えることが人類の生存にとり不可欠だと思います。

「調和ある多様性」の重要性

21世紀のグローバル社会に生きるためには、多様性を理解し、尊重し、維持することであり、かつ多様性を積極的に取り込みイノベーションの創造に役立てることだと思います。すなわち、「調和ある多様性の創造」によってのみ、グローバル社会の平和維持や、経済や社会活動に対するイノベーションを起こすことができると思います。さらに、このことにより人類社会のさらなる発展があると思います。

皆さんが学んだ大阪大学は学問の府です。大阪大学では物事の本質を見極める研究を行なうとともに、何が物事の本質であるかを見極める能力を有した人間を育成する努力を行ってきました。大学は「学問の府」であり、教育や研究活動により社会に貢献するという役割は過去、

現在、未来において不変です。そのうえで、21世紀の大学には更なる役割があります。それは「学問による調和ある多様性の創造」によりグローバル社会に大きく貢献することです。学問は芸術、スポーツや経済活動等と同じく人類共通言語です。これら人類共通言語は様々な障壁を乗り越える大きな力を有しています。学問を介する人材交流により、多様性の維持とそれが生み出す障壁の克服という、相反することの両立が可能となります。学問を介する世界規模での人材交流により異文化の相互理解や尊重を今まで以上に推進する必要性がここにあります。大学はこのように、学問による「調和ある多様性の創造」によりグローバル社会に大きく貢献しなければなりません。大阪大学で学問を学んだ皆さんは、21世紀のグローバル社会で大きな役割を担うこととなります。

己を知り、己を磨く

では、調和ある多様性を創造するにはどのような心構えが必要でしょうか？

私は多様性を認め、尊重すること、すなわち異文化の相互理解と相互尊重が重要と考えます。そのためには相手の心、相手の立場に自分を投影して物事を判断する、論語にあります言葉「恕」の心、すなわち、「寛容の心」が必要です。また、他と自己との共存・共生が必要です。

この「共に生きる」心こそが第5波という大きな波に飲み込まれつつある21世紀のグローバル社会を生きるには欠かすことができない要素だと思います。様々な文化や宗教を異にする人類が共存共栄していくためには、その事実を理解し、それを尊重する、そして共生する。グローバル社会における基本的な心です。この根底にはまず己を知り、自国を愛し、そして自国の文化を理解し、かつ尊重することが必要です。自分自身を、自国を愛することができなくて、それらを誇りに思うことができなくて、どうして他人や他国を理解し尊重することができるのでしょうか？そのためにも己を知り、己を磨かなければなりません。

さて、どのような組織や個人でも、過去の歴史や生い立ちに由来し、経験はDNAとして受け継がれています。皆さんが未来を語る際には決してそれらを見做すことができません。本日を契機に、皆さんは「大阪大学で学んだ」という共通の歴史を有することになりました。大阪大学卒業生であるということは、社会から「選ばれた人」として見られ期待もされますが同時に、社会に対する責任も有します。「己を知る」ためにはまず大阪大学を知る必要があります。では、皆さんが学んだ大阪大学とは一体どのような大学でしょうか。大阪大学を卒業されるにあたり、皆さんの未来を形成する重要な一部になる大阪大学を今一度考えてみたいと思います。

大阪大学の原点：「適塾」

「大阪にも帝国大学を」という地元大阪府民の熱意と、本日の卒業式で成績優秀な学生に贈られる「楠本賞」という名前で今も残っている大阪府立医科大学長でのちに第二代総長を務めた楠本長三郎先生や大阪府知事の柴田善三郎氏ら関係者の努力により、1931年、医学部と理学部の2学部からなる「大阪帝国大学」が、長岡半太郎初代総長の下、我が国第6番目の帝国大学として誕生しました。

江戸時代末期の1838年、緒方洪庵が「新知識をもって世の中の人を救う」ことを目的に私塾として設立した「適塾」の自由な学問的気風と先見性は、大阪府立医科大学を経て、大阪帝国大学医学部と理学部へと繋がります。1933年には大阪工業大学が工学部として加わりました。戦後、新たに法文学部が加わった際に、江戸時代後期、大坂町人が町人のために漢学や国学などを伝習した「懐徳堂」の蔵書類が、懐徳堂文庫として本学に寄贈され、大坂の町に息づいた独創的な学問と思想・文化を受け継ぐに至りました。1949年に新制大学としてスタートした際には、法文学部を文学部と法経学部に改組し、現在の総合大学としての骨格が整いました。その後、本学は、「地域に生き世界に伸びる」をモットーに、2004年の国立大学法人化、2007年の大阪外国語大学との統合を経ながら、我が国を代表する総合大学として現在の姿になりました。

大阪大学の原点でもある適塾について、もう少しお話しします。適塾には全国から1,000名以上の塾生が集まり、日夜勉学に励みました。その中には塾頭を務め、後に慶応義塾大学を創設した福沢諭吉、安政の大獄で25歳の若い命を落とした橋本左内、日本赤十字社の前身の博愛社を創設した佐野常民、近代衛生行政を確立した長与専斎、明治政府で近代的な軍隊制度を創った大村益次郎、外交で列強各国と対峙し活躍した大鳥圭介、さらには1877年(明治10年)に設立された東京大学医学部の初代総理を務めた池田謙斎など、様々な分野で維新前後のリーダーとして活躍した人々が適塾で育ちました。適塾が明治初期における我が国の近代化に大きな役割を果たしたのです。

皆さんが学び、本日卒業する大阪大学には、緒方洪庵の「人のため、世のため、道のため」という精神、そこで学んだ若者たちの偉大なる志、大坂町人の学問への情熱、そして大阪府民の熱意が脈々と受け継がれているのです。人類の未来は、若い皆さん一人一人の双肩にかかっています。社会が皆さんに求めているところは、様々な分野で責任あるリーダーとして社会に対する責務を果たすことです。あるいは、大阪大学で養われた知的創造活動の更なる飛躍です。人類が多様性の壁を乗り越えて心豊かな発展を遂げることができるよう世界に羽ばたいてください。このようなことは大阪大学で研鑽を積み重ねた皆さんだからこそ成し得ることです。

「適塾」から「世界適塾」へ

2031年には、大阪大学は創立100周年を迎えます。大阪大学の夢は創立100周年を迎える時には、「世界適塾」として世界トップ10の研究型総合大学になることです。その理念は「学問による調和ある多様性の創造」により心豊かな人類社会の発展に貢献する事です。

閉塞と混乱の江戸末期、適塾で学んだ先輩方が、我が国に新たな時代の風を吹き込んだように、皆さんにも、大きな「志」と「夢」を持って、21世紀のグローバル社会で活躍していただきたいと思います。「大阪大学で学んだ」ということを誇りに思っていたくとともに、大阪大学を卒業したことを忘れることなく、これからの皆さん自身の夢の実現のためにも目の前の山を登りきって欲しいと思います。

夢は実現することが困難だから夢と呼ばれます。現実と夢があまりにもかけ離れているが故に、人は夢を決して手に入れることができない遥か彼方の出来事だとあきらめてしまいます。しかし、夢を忘れることなく、夢に向かう努力を一步一步していると、いつの日

か夢が近づき、やがて現実のものとなります。

「夢は叶えるためにこそある」

どうか、そう信じてこれからの長い人生を歩んで行ってください。

最後になりましたが、皆さん一人一人が今日の良き日にこの大阪大学から新たな一歩を踏み出し、これからの長い生涯、健康で幸運に恵まれ、悔いのない人生を送られることを祈ります。

本日はご卒業、修了、誠におめでとうございます。

平成27年3月25日
大阪大学総長 平野俊夫